

高齢者の生活に灯を！Lights プロジェクト ～高齢者が人生を謳歌できる幸齢社会を目指して～

Lights project creates society enabling elderly persons to experience meaning and satisfaction in their lives.

Team Lights

有馬広喜, 久保田広徳, 中村広大, 日笠裕一, 肥田玲那, 疋田黎奈, 太期百合子, 城井真一, 李 爽銀, 伊藤萌, 木場渉吾, 小野裕樹, 荻田法子, 茂木和明, 櫻井陸, 蛭田秀夫

指導教員 西浦昭雄

1) 創価大学 経済学部 経済学科 西浦研究室

キーワード：高齢者, 社会参加, 精神的負担, オンラインイベント, 学生

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の蔓延は、高齢者の感染リスクを高めるだけでなく、精神面へ大きな影響を与えている。博報堂シニアビジネスフォーラム（2020）が1549人の高齢者を対象に行ったアンケート調査によると、約4割の高齢者が新型コロナウイルス蔓延前と比べて孤独を感じている。コロナ禍においても、高齢者が人と繋がり続けるためには、「オンライン上の社会参加」という選択肢が必要であると考え。また、従来の高齢者の社会参加・繋がりにつまみきれない新たな選択肢を試行する好機であると考え。その結果、八王子市の目指す「健康で笑顔あふれる、ふれあい、支え合いのまち」を実現できると考える。そこで私たち Team Lights は、高齢者がオンライン上の社会参加という新たな選択肢を持ち、人生を謳歌できる幸齢社会を八王子市で目指す。

2. 高齢者の精神的負担増加

コロナ禍において社会参加の機会を失うことで、高齢者の精神的負担が増加していると考えられる。日本総研（2020）によると、高齢者の健康維持のためには外出や社会参加の機会が極めて重要であるという。人との交流や外出の機会がなく、社会参加のない状態、すなわち社会的孤立や閉じこもり状態の高齢者は、そうでない高齢者と比較し、精神的

健康を損なう確率が高いという（日本老年学的評価研究 2020）。例えば、社会参加をしていない人はしている人と比較して、うつ病は3年間で2.2倍、認知症は10年間で1.22倍、それぞれ発症リスクが上昇するという（竹田 2020）。以上から、コロナ禍において、社会参加の機会を失った高齢者の精神的負担が増加していると考えられる。

3. 八王子市の現状

コロナ禍における高齢者及び行政の実情把握のため、ヒアリング調査を八王子市内において実施した。具体的には、高齢者の相談窓口となっている八王子市内全ての地域包括支援センター（20カ所）、高齢者サロンの運営を行う社会福祉協議会、高齢者と直接の関わりを多く持つ民生委員、八王子市役所の高齢者支援を行う2つの課（高齢者いきいき課・社会福祉政策課）にヒアリング調査を行った。

まず高齢者の現状についてである。地域包括支援センターの職員からは、「介護予防教室など的高齢者へのサービスが停止し、ストレスや孤独感を感じる高齢者が増加している」「心身の衰えが顕著である」という声が挙がっている。また八王子市内の高齢者にアンケート調査を行ったところ、「趣味や娯楽の機会を失い、ストレス発散の場を失った」「人との繋がりを失った」などの声があった。

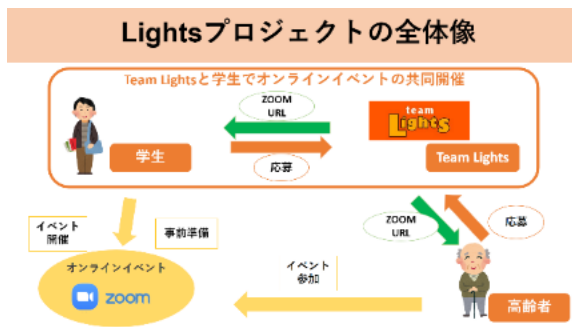
次にコロナ禍における行政の取り組みについて説明する。ヒアリング調査を通して、行政が高齢者に対して十分なサービスを提供出来ていないことがわかった。八王子市の195団体ある高齢者サロンのうち、105団体が再開できていない(2020年9月8日時点)。また再開しているサロンは、通常の約半数ほどに人数制限をしているため、参加できる高齢者が限られている。また、これまで高齢者に向けて対面の交流機会を提供してきた行政は、オンラインでこれまでのサービスを代替するなどの対応はできていない。以上のことから、高齢者は人との交流機会を失い、精神的負担が増加しているといえる。

4. 私たちのプラン

オンライン上で交流の場を創出するために、「Lights プロジェクト」を提案する。高齢者に向けたオンラインイベントを大学生と Team Lights が共同運営していくことで、高齢者同士の交流だけでなく、多世代交流も創出することができる。

プロジェクトの手順は以下の通りである。(1) 高齢者に本プロジェクトの宣伝・情報発信を行い、参加者を募集する(2) Lights 独自のWEB サイトを通じて学生ボランティアの募集・管理を行う(3) オンライン上で学生と事前準備を行う(4) 学生と Team Lights でイベントを共同開催する

以上のような手順で、外出自粛・行政サービスの停止により減少した人との交流の場をオンラインで創出できるだけでなく、高齢者と学生という新たな繋がりを作り出すことができる。



5. 進捗状況

企業と高齢者支援団体、行政に私たちのプラン

の提案し、プランの改良・実証実験の準備を行っている。高齢者に対してオンライン上でサービスを提供する企業「Rehab for Japan」と「パソコンプラザ」にヒアリング調査を行い、アドバイスを頂きプラン改良を行っている。次に、八王子市内の高齢者支援団体1団体と協力して、高齢者の方のニーズを調査しオンラインイベントの内容を検討していくことが決定している。また地域包括支援センター1団体からは、協力に向けた前向きな意見をいただき、10月下旬に共同で実証実験を行う予定である。

6. 今後の課題

ヒアリング調査、実証実験を通して以下の2点が課題であると考えた。1点目に、多くの高齢者がオンライン利用の際に個人情報の漏洩や詐欺などの被害に不安を抱えていることである。よって、高齢者の方が安心・安全にオンライン上で交流するために策を講じる必要があると考える。2点目に、高齢者にとってZOOMアプリのインストール・ミーティング参加が困難であるという点である。実際に10人の方に「ZOOMの利用」に関する実証実験を行った際も、多くの高齢者がミーティング参加の際にサポートを必要としていた。よって、高齢者の方がスムーズにオンラインイベントに参加するためのサポート体制を整える必要があると考える。

7. 行政への提案

行政への提案は以下の3点である。1点目に、私たちのプロジェクトについて、市役所(高齢者に関する担当課)・地域包括支援センター・社会福祉協議会と打合せする機会を頂くことである。具体的には、高齢者の方がオンラインイベントに参加する際のサポート体制を検討していきたい。2点目に、作成予定のオンラインマニュアルを製本し、高齢者サロン・シニアクラブを利用している高齢者に配布することである。3点目に、本プロジェクトを「広報はちおうじ」に掲載し宣伝していただくことである。そして、多くの高齢者に本プロジェクトに参加していただきたい。